

## 令和元年度第2回練馬区立美術館運営協議会 要録

日時：令和2年3月27日（金）午後2時

場所：サンライフ練馬3階研修室

出席委員 高橋幸次会長、島田紘一呂副会長  
青木茂委員、伊豆井秀一委員、佐藤康宏委員、島田紀夫委員、  
内藤正人委員、馬淵明子委員、柴田さちこ委員、富田けんじ委員、  
岩瀬たけし委員、きみがき圭子委員、須藤麻世委員、齋藤宜子委員、  
渡邊瞳委員、吉田巳蔵委員、江川誠志委員、高橋史樹委員

区職員 小金井地域文化部長、小沼文化・生涯学習課長

会 長：本日は皆様お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。  
ただいまから令和元年度第2回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。  
はじめに小金井地域文化部長よりご挨拶いただきます。

部 長：新型コロナウイルス感染症に関わる国や都の通知等により、手指の消毒、マ  
スクの着用、マイクの使用不可等ご不便をおかけいたしますが、どうぞご了承  
ください。  
第17期の運営協議会につきましては、今回で最後となります。皆様ご尽力を  
いただき、ありがとうございました。  
次期委員を引き続きお願いしている方におかれましては、引き続きどうぞよ  
ろしくお願いいたします。  
本日の会議では、練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会提言につい  
て報告もさせていただきます。どうぞ忌憚ないご意見をお願いいたします。

会 長：ありがとうございます。それでは、議題に入る前に、委員の出席状況につい  
て、事務局からご報告してください。

課 長：本日は、委員1名から遅参のご連絡がありました。今期委員は18名、うち17  
名の出席でございます。従いまして、美術館運営協議会条例第7条第2項の規  
定により、本日の協議会は成立いたしました。なお、傍聴希望者はありません。  
以上ご報告いたします。

会 長：ありがとうございます。はじめに、本日の議事の進行についてお諮りいたしま  
す。次第の審議事項1、「令和2年度事業計画（案）」から、順次、事務局  
より説明を受け、議題ごとに質問等を受けたいと思いますが、いかがでしょう  
か。

＜異議なしの声＞

会 長：それでは、次第の審議事項1、「令和2年度事業計画（案）」について、説明  
をお願いします。

館 長： ＜「令和2年度事業計画（案）」について説明 館長、担当学芸員、課長＞

会 長：「令和2年度事業計画(案)」について、ご質問がありましたらお願いします。

委 員：指定管理者収支予算について、今年度予算と比較した場合、違いや特徴はありますか。  
また、現時点での新型コロナウイルス感染症の影響があれば、教えていただきたい。

副館長：前年度との比較については、6%増となっています。主な理由は、組織改正に伴う人件費増のほか、絵画借用時に24時間空調を要求されるため、光熱水費が増となっています。また、消費税改定分が増となっています。  
新型コロナウイルス感染症の影響については、予算には反映されていませんが、外出自粛に伴い入場料収入の落ち込みがあります。

委 員：練馬区立美術館開館35周年記念展「Re construction 再構築(仮称)」の参加作家については、選定の基準があったのでしょうか。

学芸員：区や地域に関わりのある方や、新しい作品の制作が可能な方などで選定しました。

会 長：よろしいでしょうか。ほかはいかがでしょうか。

委 員：講演会は対象が中学生以上のものが多いですが、小学生が参加するのは難しいのでしょうか。

学芸員：講師には、話し方等、大人向けにと講演依頼をしているため、中学生以上を対象としています。今後、対象を小学生以上とするものを検討する余地はあると思います。

委 員：日本・ポーランド国交樹立100周年記念「ショパンー200年の肖像」と「式場隆三郎 脳室反射鏡」は、巡回となっていますが、買取形式でしょうか。

学芸員：「ショパンー200年の肖像」は、兵庫県立美術館、久留米市美術館、静岡市立美術館を巡回ではありますが、出来上がったものが来るというよりは、練馬が基幹館となり、共催の神戸新聞社や企画会社と共に作り上げた展覧会です。神戸新聞社、久留米市、静岡市、練馬区でお金を出し合っている形式です。

委 員：そうすると、入館料で賄うことになると思いますが、開館できなくなった場合、リスクを負うことになりませんか。

館 長：当然、休館中は収入がなくなってしまうので、検討しているところです。

学芸員：「式場隆三郎 脳室反射鏡」は、美術館連絡協議会を通じて、企画に参加しないかと事前に誘いがあり、調査から展覧会を作っていく形でやっています。

会 長：よろしいでしょうか。ただ巡回ということではないので、皆さんに頑張っていて、よい展覧会にさせていただきたいと思います。

会 長：ほかに質問がなければ、「令和2年度事業計画（案）」については承認とさせていただきます。  
次に、次第の報告事項2、「令和元年度事業報告（中間報告）」について、説明をお願いします。

館 長：＜「令和元年度事業報告（中間報告）」について説明 館長、担当学芸員＞

会 長：「令和元年度事業報告（中間報告）」について、ご質問がありましたらお願いします。

委 員：企画展「エドワード・ゴリーの優雅な秘密」は、目標比205.7%となっているのが興味深いのですが、要因として考えられることは何でしょうか。

学芸員：おそらく、ゴリーのファンが予想より多かったことが一因と考えられます。当館の開期前に八王子で展覧会があり、次回会場が練馬であるとの開催情報が浸透していたこと、デザインやイラスト、絵本に興味がある方等、普段美術館に絵画を見に来るような方以外の来場者が多かったこと、子連れの方が来場しやすく、初めて美術館に来た方も多かったこと等が実感としてあります。

委 員：新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、展示を中止した美術館もありますが、展示を続けている経過と対策を伺いたい。

課 長：新型コロナウイルス感染症については、区の方針として、感染予防のほか、社会・経済が停滞しないようにということがあります。感染予防の対策を講じることが難しいものについては中止とする方針のため、講演会等は中止していますが、美術館は密集しないこと、会話がなからず、感染を広げるものではないとして開館しているという状況です。  
先ほど新たな区の方針を出しまして、4月12日までの土日は閉館することとしました。平日については、通常通り開館いたします。  
また、団体利用に対しては、利用を自粛していただくよう対応中です。

委 員：社会的な側面を踏まえて、できる限り開館してほしいと思います。

部 長：クラスターを作る3つの要素がありますが、区のホームページにも掲載している「区主催イベント・事業等に関する対応方針」（令和2年3月23日決定）に基づき美術館も運営しているところです。一昨日の都知事の発言を受け、美術館でクラスターが発生する可能性は低いですが、土日の外出を控えるよう依頼があったため、外出先として、土日は美術館を閉館方向で対応を進めているところです。

- 会 長：大変な状況ですが、頑張っていたきたいところです。  
ほかにありますか。
- 委 員：一観客としての意見ですが、練馬区立美術館が開館していることを評価しています。土日の閉館はやむを得ないですが、これまで通り開館し続けられるよう工夫をしてほしいと思っています。
- 会 長：ほかに質問がなければ、「令和元年度事業報告（中間報告）」について承認とさせていただきます。  
次に、次第の3「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会提言について報告」の説明をお願いします。
- 課 長：<「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会提言について報告」について説明>
- 会 長：「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会提言について報告」に関して、ご質問がありましたらお願いします。
- 委 員：5ページの意見にも学芸員のスキルアップが必要とあるが、他区の美術館でも学芸員が少なく苦慮している状況です。美術館の規模が拡張されるので、ぜひ人員の増強をお願いしたいです。
- 課 長：施設の拡大に伴い、展覧会の対応等、人材面についても検討していきたいと考えています。
- 委 員：「練馬区公共施設等総合管理計画」の区民から美術館への意見も合わせて検討していくということによろしいでしょうか。
- 課 長：「練馬区公共施設等総合管理計画」への意見も参考にしながら、検討を進める予定です。
- 委 員：図書館との融合が大きく打ち出されています。それぞれの特性を活かしてほしいという意見もありますが、それぞれ考えていくということによろしいのでしょうか。
- 課 長：これまで光が丘図書館長も検討委員として議論を共有してきたところからです。図書館との連携は大事であるので、これからの図書館構想との整合性を踏まえながら、協議していきたいと考えています。
- 委 員：外国からの来場者に考慮し、英語でのキャプションを付けるのは費用面等で難しいでしょうか。
- 課 長：9ページにも、ユニバーサルデザインでの館内サインについての要望があります。ご意見を参考にしながら検討していきたいと考えています。

委員：作品のキャプションも英語表記が増えていくということですか。

課長：そのあたりについては、学芸員とも相談していきたいと考えています。

部長：英語を併記したキャプションやイヤホンガイド、タッチパネル式の解説カード等、いろいろ検討していきたいと考えています。

委員：子どもと美術を繋ぐ取り組みとして、ネリビラボ等自由な発想で作れる小中学生向けの事業をされているが、実際に美術から離れてしまうのは高校からですので、高校生向けのものも検討してほしい。

館長：具体的には案はまだありませんが、今言われたことは美術館としても感じていることですので、対象年齢を上げていけたらと思っています。

委員：個々の企画展等について、練馬区立美術館は面白いと言われています。練馬にゆかりのある方を取り上げて面白かったと言われる場合もありますが、来年度の電線絵画展や今年度の津田清風展など、区にゆかりのない方でも展覧会をやっています。地域の文化を支援するのはよいが、練馬でないとできない仕事はないと思うし、世界に向けた仕事でないと評価されないと思います。そういう風に思っていてやっていただきたいと思っています。

委員：2ページの「アーティスト・イン・レジデンス」について、具体的なものがわからない。未来のアーティストを育てるという意味でも、小さい子どもに刺激になるような、身近で見られるようなものにしてほしいと思います。

課長：いろいろな手法がありますので、子どもたちに向けてのことも含めて検討していきたいと考えています。

会長：ほかにいかがでしょうか。「練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会提言について報告」に関して、ほかに質問がなければ、承認とさせていただきます。

次に、次第の4「その他」に入ります。事務局から何かありますか。

課長：＜事務局の来年度の人事について説明＞

会長：他にないようでしたら、以上で美術館運営協議会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。